

令和8年度 稲沢市地域自立支援協議会 第1回就労支援部会 議事要旨

【日 時】令和8年6月4日（火）午後2時～午後3時15分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎 1階 会議室8

【出席者】就労支援部会委員6名 事務局5名

【欠席者】なし

【議 事】

あいさつ

1 報告事項

(1) 障害者の雇用状況等について（委員Aから報告）

部会長 手帳の種別ごとの就職割合は分かるか。

委員A 精神手帳をもつかたがけん引し、全体数がだいぶ上がっていると思われる。

部会長 理解が増えてきているということか。

委員A 求職者数では、仕事を探している半数以上が精神手帳をもつかた。受入れようとしたとき、精神手帳をもつかたの雇用を考えていかないと難しいという考えが、企業のなかで高まっているのではないか。

部会長 障害者雇用率の達成のために障害者のかたを雇用するということで、障害者雇用を外部に委託するようなビジネスの問題があるが、なにか情報は入っているか。

委員A 雇用率を達成するために外部に委託するようなビジネスは、管内でないとはいえないと思う。情報収集するなかで、昨年度に関してはそうした情報は聞いていない。

部会長 そのようなビジネスは、増えているのか。

委員A 自分の知らないところであるかもしれない。雇用指導にうかがった際、障害者雇用を支援するサービスの利用を考えている企業は少なからずある。

委員B それに対して指導できるのか。

委員A 代行ビジネスを使っていることの指導はできない。しかし、適切な雇用管理ができているのかという視点から、雇用者としてどのように管理しているか、目が届くかたちになっているか、どのくらいの頻度で現場に行っているかなど話をしている。

部会長 事務局でなにか情報はあるか。

事務局 現状、入っている情報はない。仮にそのような情報があれば共有できるといい。窓口にも、精神疾患があるかたで一般就労したいがどこに相談すればいいかという相談はある。

(2) 令和8年度の所管課題について（事務局から報告） →疑義なし

2 協議事項

(1) 障害者の雇用環境の充実

(障害者雇用の普及促進と、雇用企業と福祉事業所の連携強化)

1) 障害者雇用フォーラムについて

部会長 実施にあたり、規模は前回と同じくらいを想定しているか。

委員B そのとおりで、400人を目指す。前回より一歩進んで、少し難しいテーマにしている。前は初回ということで、一般就労することの素晴らしさや働いている障害のあるかたを見ることで、自分もがんばろうと思ってもらえるようなもので、聞きやすい内容だった。今回は来場者に考えてもらえるような内容を考えた。「働くとはどういうことか、雇用するってなんだろう、送り出すってなんだろう」ということを考えてもらえるようなフォーラムにしたい。結果に表れるかわからないが、「雇用の質」は重要で、無視できないテーマである。

部会長 前回よりも関係者に聞いてもらいたい内容だ。

委員B 現在、障害福祉サービスの不正もたくさん広まっており、関わる人たちがきちんと考えることが大事だ。

部会長 チラシはいつごろ完成予定か。

委員B 今月中には完成したい。告知方法は前回に加え、なにか新しいアイデアがあればチャレンジしたい。

部会長 新たな告知方法はないか。

委員B ハローワークでなにか発送するタイミングでできないか。

委員A 確認はするが、労働基準協会の会報誌に毎月発行するものがあり、企業向けに周知の延長で伝えようかなと思う。

事務局 当日の役割分担はどうなるのか。

委員B 現在、役割分担表を作成中。経験している人を中心に、おおむね去年と同じようになると思う。大事なのはマルシェだ。前は場所が狭すぎたという意見があり、人数の調整や、ホワイエの奥のスペースを使えないか確認する必要がある。マルシェの担当は去年と同じになると思う。

部会長 マルシェは多くのかたが楽しみにしていると思うので、減らすよりは現状維持で行うことができる方法をとりたい。

事務局 前回からの大きな変更点はあるか。

委員B 特段、変わることはないが、役割等は増えると思う。例えば、当事者交流会や家族交流会を主催者が主体でやるのではなく、一宮市の部会員に任す形になると思う。

2) 仕事体験「輝きウィーク」企画

部会長 企画に際し、チラシを作るのか。

委員B その予定である。そのほか、保険の問題がある。しかし、同じ事業所に通いマンネ

り化し、事業所職員の指導を聞かなくなっている人もいるので、企業に行って指導していただくいい機会だと思う。

委員C 保険について、高等部2年生から全員が年間を通してインターンシップ保険に加入している。学校の授業として適用され、個人的な参加は適用外だと思う。全員が個々に保険加入しているわけではない。重度障害があるかたはいつどこでどうなるかわからないので保険加入しているかたが多いが、高等部から入学した生徒たちは、おそらくインターンシップ保険しか加入していないと思う。

委員B 静岡県の企画では、学校の生徒の参加は、そこまで多くはなかった。

委員D 参加企業や来ていただく人数にもよると思うが、1回で何名くらい受入れるのか。

委員B その部分は調整しなければいけない。例えば、ひとつの企業に集中してしまうと困るので、必ずしも希望がとおるわけではなく、分散させる形とする。

部会長 学生の職場体験のようなイメージか。

委員B そのとおり。企業の負担にならないよう、2週間のあいだに、都合のいい日にちで2時間とっていただく。

委員D 毎日2時間、誰かがくるわけではないのか。

委員B 毎日は負担が大きいので、企業側の都合のいい日時を指定していただく形で。

部会長 商工会の人でもこれならハードルが低いのではないか。

委員D 難しいと思う。商工観光課でやっている障害者雇用促進キャンペーンで訪問実績のあるところなどにフィードバックしてみるといいのではないか。

委員B そのようにしたい。2時間だけで支援員が片づけもするので。

委員D 中学生のインターンシップの協議会にも参加しているが、企業側の受け入れに対する使命感と社会貢献の一環であるという部分の認識がなかったら正直、大変だ。受け入れることで、将来会社の雇用につながると言われるが、中学生を受け入れたところで就職までの数年後は、わからないものである。

事務局 実施にあたり、参加者1人に対して支援者1人か。

委員B 参加者数人に対し支援者1人でよい。雇用を前提としない、この体験の機会というのはハローワークとしてどうか。

委員A 特に問題はない。

委員B 以前のハローワーク担当者は、好ましくないという意見だったが、静岡、三重でもやっている。

部会長 静岡、三重で開催したときは、A型事業所は仕事を休ませたうえで行ってもらうのか、それとも参加した分実習として賃金を出したのか。

委員B 事業所では実習に送り出すとき、どうされているのか。

部会長 実習というものがあまりない。

委員B A型事業所から就職される場合、どこか一般企業で見学・実習すると思うが。

部会長 その場合は出ない。本人がそれでもよければという話だ。

- 事務局 先ほどの学校の話だと、保険加入していればこの事業への参加は問題ないという認識か。
- 委員C 個人的に、加入している人は大丈夫だと思う。
- 事務局 生徒が行くとき支援者はついて行かなくてもいいのか。
- 委員B 放置はだめなので、先生が付いていく必要がある。実習時は、どうされているのか。
- 委員C 生徒1人が行き、職員は巡回する。
- 事務局 その点を今後、どうするか決めなければいけない。
- 委員B 静岡で実施されたルールを守るのかどうか。受け入れのハードルが高かったところに受け入れていただくことを考えると、生徒の参加も行うことがいいのではないか。あとはずっとA・B型事業所にてステップアップできない人に向いていると思う。
- 事務局 事業所にも理解をしていただき進めないといけない。
- 委員C 例えば、学校職員が付き添いで学校の実習期間外を希望する生徒に私が付いていくことであれば、高2、高3の保険については、学校の行事ということで問題ないと思う。
- 委員B 仕事体験「輝きウィーク」のメリットは、実習できる場所を増やすことができるということ。実習できる場所を地域で増やし、2時間なら受け入れできるという場所を増やすことが狙い。また、学校や事業所だけでは測れないこともあり、外に出ることで意外な力を発揮する場合がある。また、支援員がいるので、事業所のかたも声掛けなど学べる場所も多いと考えている。
- 事務局 「輝きウィーク」はすろーぶ主催で、部会は協賛か。
- 委員B それでよい。

3) いなぎわ特別支援学校 PTA 主催 事業所相談会について

- 部会長 事業所として参加しているが、もっと広く認知されてもいいのではないかと思うし、PTA に入っていないかたは情報収集できない状態なので、お手伝いできることはいいことなのではないかと思う。
- 委員C 毎年出席させていただいているが、保護者の数が年々減っている。去年出席して内容も変わっていないような気がする。PTA 主催だと外部から参加しにくいいため、連携できれば地域のかたにも参加していただけるのではないか。実際、ほとんど保護者が来ていないブースもあるので、事業所のかたには申し訳ない。
- 事務局 事前の打合せで、一宮市にも協力していただけるかという話があった。
- 委員C 北名古屋市、清須市の事業所がブースを出しても、北名古屋市や清須市の保護者たちは、なかなか来られないので、地域と連携を取ってやっているといい。
- 委員B PTA の人たちは、PTA に関係ある人たちに参加してほしいと思っているわけではないということか。

事務局 そのようだ。多くの事業所に来ていただくが、保護者が少なくブースに誰も来ないこともあり、かえってそれが申し訳ないという意見であった。

委員B それであれば、事業所連絡会でこのイベントの周知をしてもらうよう、一宮市にもかけあったほうがいいか。

委員C 最初は稲沢市だけでやってみるといいと思う。学校関係者以外が集まってくるようであれば、来年、一宮市に声をかけてみるといい。

4) その他事業について

- ・昨年度の活動について

【いなざわ特別支援学校見学会の開催について】

委員C 今年度も商工会議所で、企業と高校の交流会に参加させていただいたが、今回は初めての企業にも参加していただき 11 社であった。興味を持ってくださった企業に対し、見学会の案内の連絡をするつもりだ。

部会長 去年のフォーラムのときに見学会のチラシは配布していたか。

委員B 折り込みで配布している。

事務局 意見交換する時間をもう少し設ける、参加型にするなど、当日の内容を変更することは可能か。

委員C 以前、8名ほどで見学に来た企業が、生徒とゲームで交流する時間などを持っていかと提案されたことがある。授業でポッチャをやることがあるので、企業のかたと生徒で対戦するとか。作業の様子プラス何かということは可能だと思う。

部会長 ポッチャを広めたいという企業があり、稲沢市の話をしたらぜひ呼んでほしいと言われたので、お声がけすれば来てくれると思う。そういうものを取り入れて、違った交流の場を持つこともいいのではないか。

委員C もともとの目的が、企業のかたに生徒の作業している様子を見してもらうことなので、そこは主として残しておきたい。それに付随してなにかできるといい。

部会長 またいろいろな課題を見つけながら、告知を頑張らないといけない。

3 その他

- ・難病患者の就労支援体制づくりに向けた連携会議
- ・一般就労につながる支援！支援員のための実践ノウハウ研修
- ・中小企業家同友会稲沢地区 5月例会